

令和4年度 自己評価(結果)

| | | | | |
|------|-------|-----------------|-----|------|
| 学校番号 | 62208 | 学校法人脇谷学園 静岡南幼稚園 | 記載者 | 青島範明 |
|------|-------|-----------------|-----|------|

| | | | | |
|---------------------------------|--|---|--|---|
| 学校教育目標 | 遊びを通して様々なことを学び、互いの考えを尊重しながら、自己を確立する。 | 【総合評価】 総合的には、平均的な自己評価にとどまったが、今年度は各分野で、新しい視点をもって挑戦をしてきたと考える。その新たな試みにより、本園にとっていい形で結果を残せることにつながってきた。園児募集に関しては、一層の少子化進行の中で、ほぼ目標とする園児数を確保することができた。組織づくりや時代が求める新しい教育についての模索の観点では、教師の協同性や思考の根拠性、およびチャレンジ精神が課題となったと思われる。しかし、ECEQにおける公開保育へのチャレンジの結果で見られたように、改めて本園の教育に対する成果が、同業の外部の人間から評価されたことは、教育力に対する自信を強めてもよいと思う。各領域の成果を細かく見ていくと、まだ課題は多いが、どうすれば解決できるかがわかっていくことが多いので、一つひとつ解決し、より高い教育の実現を目指したい。 | | |
| 教育方針 | ・学校教育法及び幼稚園教育要領に従い、幼児教育の役割を遂行する。 ・家庭では体験できない新たな世界と出会いの場を設け、幼児の自立に向けた基礎を育成することをねらいとした教育を目指す。 | | | |
| 今年度の重点目標 | | 評価 | 今年度の成果と課題 | 次年度の取組 |
| 1 少子化がさらに進行する中、目標園児数(収容定員)を獲得する | | 4 | 年少児対象だけでなく、方向性をかえ満3歳児に目を向けたことで、満3歳児を38名受け入れることが出来た。未就園児活動も対象児年齢を下げ、りんごちゃんルームを開設したことで、より多くの子供達が参加できるようになったため、本園に集まる人数が増加した。今後、更に広い範囲、地域での未就園児が集まるようにしていく事が課題となってくる。また、来園者を持つだけでなく、外部へ出てPRしていく事も検討する必要がある。 | 保護者が求める幼稚園に対するニーズを考えながら、より広範囲にPRできる方法を考え、年少と満3歳児の受け入れをしていく。また、未就園児の活動を楽しく充実させただけでなく、保護者同士の交流の場となり、情報交換ができるようにする。更に活動の回数を増やすと共に、園児募集の範囲、地域を広げていく。新たに2歳児の一時預かりや、発達障害、療育に通っている子への対応等受け入れの範囲を拡大することを検討する。 |
| 2 強い組織づくりをする | | 3 | 本園の教育活動の特色として根幹にある非認知能力の育成を、教師一人ひとりが意識して実践し成果をみることができた。一つの目標に向けた、教師の団結も見られる一方、一人ひとりの教師の個性ある教育活動を展開できたことも評価できることである。 | 教師一人ひとりの個性を生かしつつ、さらに個々の資質や力量をあげることで、互いに補って行くことで、より強い組織作りをすることに努める。そのために、本園が目指す教育の目標や方向性に対し共通意識をもち、互いに高め合っている土壌づくりをする。 |
| 3 時代が求める教育を展開する | | 3 | 幼児教育に対して保護者の意識も変わってきている中で、幼児期の終わりまでに育てたい「10の姿」に具体的に示されるような非認知能力の育成を意識し、そのことを前面に出して、幼児教育を展開してきたことは評価できると考える。今後も、子供の見える力を引き出し、自分で考えて行動できる力が身につくような教育を継続し、次の段階への展開を考えたい。 | 「何を学ぶか」ではなく、「どのように学ぶか」を具体的にしていくことで、教育活動をどう展開するかについて、教師が深く考える環境づくりをする。そして、子供達が学びの中で、「わかった」「おもしろい」と思える、周りの人達と共に考え、新しい発見や豊かな発想が生まれるように工夫していく。そのためには、教師の柔軟性と視野を広げる意識改革を展開しつつ、時代が求める教育を行う。 |

| 領域 | ねらい | 評価項目 | 今年度の達成目標 | 昨年度の実績 | 評価 | 今年度の成果と課題 | 次年度の取組 |
|----------------|--|---|--|--|----|--|---|
| 学校経営・教育課程・指導方法 | 適切な教育課程が編成され、学習目標・計画が明示され、日常の学習活動を効果的に展開する。 | 教育課程、教育目標・計画・指導、課題実 | <ul style="list-style-type: none"> 今年度も新型コロナウイルスの感染拡大については、予想がつかない状況下にあるが、昨年度同様、行事及び活動を中止するのではなく、実施内容・方法を検討することで、子どもたちの体験から学ぶ機会の確保に努める。 日々の教育活動の中において、子どもたちの個性を認めながら、誰もが活躍できる教育活動を展開する。 学年に応じて行われる外部講師による「リズムあそび」、「あそびっこ」、「フットボール」、「スイミング」や、内部のALTによる「えいごあそび」を展開し、活動を通して、子どもたちの「非認知能力」を高めるとともに、本園の強みとなる教育活動として強く外部にアピールする。 | <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス禍の中、安全管理を行いながら、行事や活動を実施してきた。なるべく中止にするのではなく、実施内容や方法を検討し、時間短縮等をし、計画実施した。子ども達の体験や経験を減少せず、実施できた。 今年度も一人ひとりの関わりを丁寧にし、生き生きとした自分らしさを身に付けられるようにした。個性が発揮できる場を設けたり、子どもの育ちを考え、日々の教育活動が充実するよう取り組んだ。 スイミングや英語あそび・あそびっこ等を日常の教育活動に導入していることで、保護者もそうした点が魅力と感じ、入園を希望する方が増えた。園としても、更なる教育活動の充実と、時代が求める教育活動を積極的に展開し、本園の特色としてアピールしていきたい。 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> 今年度も新型コロナウイルス感染対策をしながら状況を見て、できる限り行事及び活動等を実施した。 子どもたちの個性を認めながら、誰もが活躍できる教育活動を展開した。そのプロセスの中で、教師自身も常に実施したことを振り返り、一つの活動が単発的なもので終わらせるので話、次の活動につながる事を意識した活動を展開した。 学年に応じて行われる外部講師による「リズムあそび」、「あそびっこ」、「フットボール」、「スイミング」や、内部のALTによる「えいごあそび」を展開し、活動を通して、子どもたちの「非認知能力」を高めるとともに、本園の強みとなる教育活動として強く外部にアピールしてきた。その様子をもっと保護者や、未就園児の保護者にもアピールしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して、教師のみならず、園児たちも振り返りを行うことで、深い学びにつながる教育活動を展開していく。 教師は、日々の教育活動において、新しい発想や、アイデアを出し合いマンネリ化せず、年々向上出来るようにする。 学年に応じて行われる外部講師による「リズムあそび」、「あそびっこ」、「フットボール」、「スイミング」や、内部のALTによる「えいごあそび」を、それぞれが単発的な活動に終わるのではなく、それぞれの活動が、年齢の発達段階において連関性をもたせ、諸活動を通して、子供たちの「非認知能力」を高めることが、本園の一層の強みとなるよう、教育活動をしていく。また、思考力を引き出す活動も展開する。そして、その様子をもっと保護者や、未就園児の保護者にもアピールする。 |
| 安全管理 | 日常から防災に対する意識を高め、予期せぬ災害時に適切な対応ができる体制作りをすることが必要。また、学校としても校内の危険個所の定期的な点検、園バスの安全運行といった意識を常に持ち合わせる。園児の健康管理のための検診計画を作成・実行し、疾病者に対する治療勧告を行う。 | 防災訓練(校内・校外)、災害時の対応、安全な教育環境、安全なスクールバスの運行、検診計画、健康管理指導 | <ul style="list-style-type: none"> 年間を通じての防災に係る訓練を実施し、有事の際に、子どもたちも適切な行動がとれる訓練を実施する。 園内外で起こる事件・事故に対応すべく、教職員の防犯に対する意識を高める。また、外部から入手した事件情報に関して、保護者とも共有するよう努める。 遠足及び園外保育など、外部での教育活動を実施する際は、目的地までの安全な移動方法及び現地での安全な活動実施が可能となるよう、該当学年による事前の下見と教職員間の情報共有を図る。 園児たちの登降園児の安全確保のため、交通ルールを学ぶ安全教室を年間で計画し実施する。 園バスの運航に際し、事故の発生がないように、運転手に対する指導、さらには添乗する教職員に対する指導を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 園児の避難訓練、担当者による安全点検を適切かつ定期的に実施した。園庭の遊具だけでなく、施設設備の老朽化が進行しているため、対応策を計画した。例えば、回転遊具が破損していたり、塗装が剥げてきたので入れ換えをおこなったり、幼稚園の門扉が破損していたため、修繕工事を行い新しくするなど、迅速に修理及び差し替えを行った。 来訪者には、正門ではインターホンを必ず押してもらい、顔を確認してから入ってもらうようになっている。またその際、鍵の掛け閉めも忘れずにお願している。 最近是不審者の情報も聞かれるので対応についても、教職員の連携を考えていきたい。 子ども達の安全確保のため、防犯カメラを7か所設置している。 園外活動、遠足等、園外へ出ることも多いので事前に目的地や道のり等の下見をし、安全の確認をしてきた。又、登降園児の際も交通ルールを守り、子供達自身にも確認させ、身につくようにしてきた。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 年間を通じての防災に係る訓練を実施し、有事の際に、子どもたちも適切な行動がとれる訓練を実施した。 教職員は防犯に対する意識がまだまだ高まっていないと思われる。外部から入手した事件情報に関して、園メールの配信などを通して、保護者と共有するよう努めた。最近是不審者の情報も聞かれるので対応についても、教職員の連携を考えていきたい。来訪者には、正門ではインターホンを必ず押してもらい、顔を確認してから入ってもらうようことを徹底するとともに、7箇所設置している防犯カメラでの監視体制を強くしたい。 園児たちの登降園児の安全確保のため、交通ルールを学ぶ安全教室を年間で計画し実施した。 遠足及び園外保育など、外部での教育活動を実施する際は、目的地までの安全な移動方法及び現地での安全な活動実施が可能となるよう、該当学年による事前の下見と教職員間の情報共有を図った。 園バスの運航に際し、事故の発生がないように、運転手に対する指導、さらには添乗する教職員に対する指導を行った。しかし、園バスの運航に対する外部からのクレームのあったので全体での意識改善が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> コミュナビを導入したが、バス運行に関する活用が、いまだされていないので、早い段階で完全活用できる体制を作り、園バス利用者に対する利便性を図る。 園バスの乗降は、教職員及び園バスの乗務員で、再度改定された危機管理マニュアルをもう一度確認し、事故が起きないような体制を作る。 最近是不審者の情報も聞かれるので対応についても、教職員の連携を考えていく。外部からの来訪者には、正門ではインターホンを必ず押してもらい、顔を確認してから入ってもらうようにすることの徹底を図る。また、不審者対策についての訓練実施も実施する。 |

| | | | | | | | |
|--------|--|--|---|--|---|---|--|
| 子育て支援 | 年間を通じて、本園独自の子育て支援活動に積極的に取り組む。 | 年間を通じて、開園日の預かり保育及び長期休業中の預かり保育の実施、入園希望者に対する園の公開活動、未就園児を対象とした本園独自の活動の展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間200日を超える預かり保育の実施日を設置し、利用する保護者や子どもたちに対する利便性を高める。 ・1・2歳を対象とした未就園児が参加できる「親子ふれあいあそび」や「りんごちゃんルーム」を、各月に実施することで、幼稚園がどのようなところか、早期段階で保護者に理解してもらい、子どもたちが体験する場を設けることで、保護者に対する子育て支援を展開する。 ・本園がどのような教育活動を展開し、どのような特色を持った幼稚園であるかを理解してもらうために、園見学会や体験入園の実施回数を、昨年度以上に増やす。また、広報には、園長・教頭だけでなく、教職員が全体で取り組む意識を持てる組織づくりをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育時間は朝7:30～8:30、保育終了後は基本14:15～18:00。今年度は、なるべく預かり保育を実施し、保護者の方に安心して子供を預けていただけるよう取り組んだ。また早期の預かり保育を利用される方も増えた。 ・今年度は、園見学会4回と体験入園1回を計画し実施した。未就園児の保護者の方々に園の魅力や良さを知っていただき、多くの方に参加していただいたが、なかなか継続して来てもらうことは、難しく苦戦した。もっと園の広報の仕方を検討する必要があった。 ・親子で楽しく体を動かしたり、友達と遊ぶ楽しさも体験できるよう、今年度は「親子体操」7回「親子ふれあい子育て広場」6回を計画したが、新型コロナウイルス感染症予防の為、回数を減らした。 ・教員の数が減少したため、今年度も「りんごちゃんルーム」、新たに未就園児の一時預かり保育「ちびっこじゃく」や満2歳児対象とした「いちごちゃん」等は実施しなかった。来年度は職員を整え、対象児の年齢を下げて実施できるように準備していきたい。 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間200日を超える預かり保育の実施日を設置し、利用する保護者や子どもたちに対する利便性を高めた。 ・1・2歳を対象とした未就園児が参加できる「親子ふれあいあそび」や「りんごちゃんルーム」を、各月に実施した。これにより、幼稚園がどのようなところか、早期段階で保護者に理解してもらおうと共に、子どもたちが体験する場を設けることが出来た。引き続き、より保護者に対する魅力的な子育て支援を検討したい。 ・本園がどのような教育活動を展開し、どのような特色を持った幼稚園であるかを理解してもらうために、園見学会や体験入園の実施回数を、昨年度以上に増やした。また、広報は引き続き園長・教頭だけでなく、教職員が全体で取り組む意識を持てる組織づくりをすることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、年間200日を超える預かり保育の実施日を設定し、利用する保護者や子どもたちに対する利便性を高める。 ・1・2歳を対象とした未就園児の活動を色々な内容で計画し充実させていく。今年度実施したりんごちゃんルームも、参加者同士が、本園地を中心として、より交流や情報交換ができるように、運営方法を再検討し、実施していく。また、担当する人数も、年間を通じて動けるよう人員を配置する。 ・本年以上に園見学、体験を増やす。また、従前とは違った形のものも検討し実施していく。 ・機会を作り、場所を変えての未就園児の活動イベントを検討する。 ・2歳児の一時預かりの実施が可能であるか検討したい。 ・在園児と未就園児が交流できるイベントを企画する。 |
| 特別支援教育 | 支援が必要な子、気になる子への対応をすると共に、特別支援計画をたてて実行する。 | 支援計画・支援体制の確立、巡回訪問カウンセリングの活用、療育施設との園児に関する情報交換、保護者との情報交換 | <ul style="list-style-type: none"> ・近年、入園面接の際に、自分の子どもが発達障害ではないかと考える保護者が増加している。そうした保護者に対し、子どもの状況を細かく見ながら、家庭と情報交換を密にし、子どもの指導に活かすことで、成長を助けていく。 ・入園後、指導の過程で気になる子供については、巡回カウンセリングを活用し、意見を園区とともに指導助言を求める。 ・本園以外で、療育指導を必要とする子どもたちについては、通所する施設との情報交換を密にし、保護者も含めて、三者で子供の成長をサポートする体制を展開する。 ・発達障害時に関しては、その子にあった個別指導体制をとれるような環境を作る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・長期的な発達しをもち、子供自身が自らの良さを生かせるよう関わってきた。 ・各学年で支援が必要な子、気になる子が増加傾向にある。そのため、私立幼稚園協会の巡回訪問カウンセリングに申し込み、外部から専門家に来てもらい、気になる子の姿を見てもらった。また保護者にも来園してもらい、一緒に指導や対応の仕方を学んできた。一方、教職員は個々の園児に対して、丁寧に関わりを持ち、その子らしさを大切に、自信が持てるように援助してきた。担任だけでなく級外もサポートしてきたが、個々に合わせた教育活動を展開していくことは難しかった。 ・カウンセリングの講師、パソやハッピーテラス等の療育施設、保健センター等と日常的に子どもの姿の情報交換を行い、保護者も含め協力して対応してきた。 ・発達障害児の個別指導計画書の作成をしたり、その子にあった指導を心掛けるように配慮した。また保護者と情報を交換し連携をとっている。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の子どもが発達障害ではないかと考える保護者が増加している、そうした保護者に対し、子どもの状況を細かく見ながら、家庭と情報交換を密にし、子どもの指導に活かすことで、成長を助けていく体制づくりをした。 ・入園後、指導の過程で気になる子供については、巡回カウンセリングを活用し、意見を園区とともに指導助言を求めながら、日常の園児指導に活かした。 ・本園以外で、療育指導を必要とする子どもたちについては、通所するアライ、パソやハッピーテラス、リタリコ等施設との情報交換を密にし、保護者も含めて、三者で子供の成長をサポートする体制を展開した。しかし、保護者に子供の状況が伝わらないケースも多かった。 ・発達障害時に関しては、その子にあった個別指導体制をとれるような環境を作り、場合によっては、園児と教師が一对一で指導する対応をした。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き巡回カウンセリングの講師やアライ、パソやハッピーテラス、リタリコ、みなしあ等の療育施設や保健センター等と日常的に子どもの姿の情報交換を行い、保護者も含め三者間で協力し、発達障害を抱える子供の成長に寄与するよう努めていく。 ・本園入園後に、子供の状況を見て支援が必要と思われる園児がいた場合は、保護者に子どもの状況をつた、保護者に寄り添いながら、一緒になって対応を考えていく。 ・教師が在園児で、専門家の助言を必要とした場合は、療育関係を専門とする施設関係者や医師の助言を積極的に求めていく。 |
| 教育環境 | 園児たちが楽しんで教育活動に取り組める環境づくりに工夫をする。 | 「週案」及び「日案」における計画的な教育活動の実施、日常の教育活動の展開のうえで、興味・関心を高める工夫、活動の振り返りによる次の活動に対するモチベーションを高める | <ul style="list-style-type: none"> ・「週案」及び「日案」で、短期的なスパンでの教育計画を作成する際に、子どもたちの興味・関心が高まり、個々の活動に対して楽しんで取り組めるようにする。 ・個々の教育活動において、子どもたちが自発的に考え、想像力を掻き立て、子どもたちの創造力を伸ばす教育環境の構築を図る。 ・教師も子どもたちも、様々な教育活動の節目節目で、「リフレクション(振り返り)」をすることで、より深く学びについて考えていける教育スタイルを作り実行する。これを、PDCAサイクルで繰り返し、「深い学び」への手法を構築する。 ・各活動を単発的に終わらせることなく、継続的な活動にしていくことで、活動に発展性を持たせ「リフレクション(振り返り)」の機会を多く設定し、それにより活動に更なる発展性を持たせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は様々なことに興味関心を示し、楽しんで活動や遊びを行っている。日々の教育活動においても、子ども達の持つ発想やアイデアを生かした活動をするよう意識した。 ・日々の保育を振り返り、教育の質が高められるよう、教師一人ひとりが意識してきた。教材研究や環境設定を見直し、ゆとりを持って環境作りをしていきたい。 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・「週案」及び「日案」で、短期的なスパンでの教育計画を作成する際に、子どもたちの興味・関心が高まり、個々の活動に対して楽しんで取り組めるようにした。 ・個々の教育活動において、子どもたちが自発的に考え、想像力を掻き立て、子どもたちの創造力を伸ばす教育環境の構築を図れた。 ・教師も子どもたちも、様々な教育活動の節目節目で、「リフレクション(振り返り)」をすることで、より深く学びについて考えていける教育スタイルを作り実行した。これを、PDCAサイクルで繰り返し、「深い学び」への手法を構築することができた。 ・各活動を単発的に終わらせることなく、継続的な活動にしていくことで、活動に発展性を持たせ「リフレクション(振り返り)」の機会を多く設定し、それにより活動に更なる発展性を持たせることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年度の教育目標、学年、学期でのシラバスを明確にし、それに基づいて「週案」・「日案」で短期的な教育目標と到達目標を明確にする。また、それを、園長・教頭・主幹が目を通し、指導・助言をする体制を作る。 ・引き続き、非認知能力の育成に務める教育環境づくりをしていくことはいうまでもないが、諸活動を通じて、鑑賞も園児もリフレクション(振り返り)をすることを習慣化していくことで、「深い学び」につながる手法を考えていく。また、それにより認知能力の育成に、どこまで幼児教育段階で進めていくことができるかについて研究を深め、幼少連携プログラムについて考える。 |
| 研修 | 教育内容が問われる時代、教職員の資質向上が常に求められるので、計画的かつ時代が求める教師となっていくための研修を的確に実施し、各教職員が個々のスキルを上げていく体制作りをする。また、研修内容を共有化していくためのシステム作りをしていく。 | 計画的な研修体制の確立、校外研修への参加、研修報告会の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修については、幼稚園協会がテーマとすることについての研修だけでなく、必要に応じてテーマを設定し、研修を実施することで、教員のスキルアップに努める。 ・外部の研修に関しては、人員のやりくりを考えながら、教職員が参加できるような体制を整えることで、教員の処遇改善の適応条件を満たせるようにする。 ・外部研修については、参加した教職員が学んだことを、教職員で共有できる機会を設け、全体でのスキルアップを図る。 ・ECEQの公開保育に応募し、本園の教育について、客観的な見地から外部の教員に評価してもらおう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修については、幼稚園協会がテーマとすることについての研修だけでなく、必要に応じてテーマを設定し、研修を実施することで、教員のスキルアップに努めることができた。 ・外部の研修に関しては、人員のやりくりを考えながら、教職員が参加できるような体制を整えることで、教員の処遇改善の適応条件を満たせるようにした。 ・外部研修については、参加した教職員が学んだことを、教職員で共有できる機会を設け、全体でのスキルアップを図ることができなかった点は、反省すべき点となった。 ・ECEQの公開保育に応募し、本園の教育について、客観的な見地から外部の教員に評価してもらおうことができ、高い評価を得ることができた。 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修については、幼稚園協会がテーマとすることについての研修だけでなく、必要に応じてテーマを設定し、研修を実施することで、教員のスキルアップに努めることができた。 ・外部の研修に関しては、人員のやりくりを考えながら、教職員が参加できるような体制を整えることで、教員の処遇改善の適応条件を満たせるようにした。 ・外部研修については、参加した教職員が学んだことを、教職員で共有できる機会を設け、全体でのスキルアップを図ることができなかった点は、反省すべき点となった。 ・ECEQの公開保育に応募し、本園の教育について、客観的な見地から外部の教員に評価してもらおうことができ、高い評価を得ることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修については、定期的にテーマを設定し、新たな知識・情報について触れる機会を設定する。 ・外部研修については、参加した教職員が学んだことを、教職員で共有できる機会を設け、全体でのスキルアップを図り、情報交換をしていく。 ・「はごろも教育研究奨励助成事業」において、外部講師を招いての研修体制を作ることができた。それを持って、「深い学び」に通じる手法について、実技指導を含めての研究活動ができるので、福井大学の小林和夫教授の手を借りながら、個々の教師のスキルアップを図る。 |

| | | | | | | | |
|--------------|-------------------------------|--|--|--|---|--|---|
| 保護者、地域住民との連携 | 保護者や地域諸団体や地域住民との交流・連携を図る。 | 保護者の会との情報交換、学校運営に対する外部団体の参画、外部要望の学校運営に対する反映、保護者に対する協力依頼 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況が沈静化しないと、地域との交流がとりにくい状況が続いていくものと思うが、少しでもかかわりが持てることに關しては協力する意識をもって活動していく。 ・外部からもたらされるオファーに關しては、できる限り応えるべく対応をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・例年行われている中田本町「いきいき会」、デイサービスマイル、社会福祉法人葵寮等との交流活動については、新型コロナ感染防止のため、中止した。現状では、なかなか交流が難しいが状況を見ながら、今後も交流を行っていききたい。 ・アプリメイクやラジカルラボの依頼を受け、両社のCMに園長、教職員、年長児の代表の子が出演した。静岡放送、静岡第一テレビ、テレビ静岡で放送された。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況が沈静化の傾向がようやくみられるようになってきたが、今年度も地域との交流がとりにくい状況は続いた。しかし、少しでもかかわりが持てることに關しては協力する意識をもって活動するよう努めた。 ・外部からもたらされるオファーに關しては、できる限り応えるべく対応をした。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、外部からもたらされるオファーに關しては、できる限り応えるべく対応をする。 ・保護者参観会等で、日常の子どもの様子を見てもらう機会を増やし、教師と保護者がコミュニケーションをとることで、情報交換ができるようにする。 ・私立関係者との交流の場ができる限り参加することで、情報交換に努め、今後の私立教育に何が求められ、どのように教育を展開すべきかのトレンドをつかむ。 |
| 情報提供 | 幼稚園に関する活動状況などに関する情報発信を積極的に行う。 | ホームページ、フェイスブック、インスタグラム等による情報発信、パンフレットの毎年更新、園メールやICTシステムの活用による保護者への情報提供と園との情報交換 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や社会で、本園の状況を知る入り口となっているホームページについては、全面的に刷新する。それにより、本園の教育内容が、より理解しやすい状態を作る。さらに、様々なイベントに参加したいと思う方たちが、イベントに申し込みしやすいシステムを構築する。 ・個人情報保護の観点からも難しいものがあるが、フェイスブックやインスタグラムなどで、本園の教育活動を公開し、子どもたちの躍動的な姿を公開する。 ・新たにICTシステムを導入することで、在園児の出欠管理、園バスに関する情報、預かり保育の申し込みなどについて、保護者の利便性を考えた環境を作る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も幼稚園案内、ホームページ、インスタグラム、フェイスブックなどの写真の記載について、保護者の承諾を得て実施しているが個人情報問題もあり制限される現状がある。 ・コロナ禍で感染症対策のため、保護者の方に子どもの姿を直接見ていただく機会が減りましたが、園のお知らせや毎月の園だより、学年だよりを作成し、定期的な園の様子や情報を提供してきた。また今年度は行事や活動等、子供達の生き生きとした姿や楽しんでいる様子を、インスタグラムやフェイスブックにあげ、幼稚園案内やホームページも活用して伝えることができた。引き続き、保護者との連携を大切にしていきたい。 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や社会で、本園の状況を知る入り口となっているホームページについては、全面的に刷新した。それにより、本園の教育内容が、より理解しやすい状態を作ることができた。さらに、様々なイベントに参加したいと思う方たちが、イベントに申し込みしやすいシステムを構築することができ、参加者も昨年以上に増加した。 ・個人情報保護の観点から難しいものがあったが、フェイスブックやインスタグラムなどで、本園の教育活動を公開し、子どもたちの躍動的な姿を公開することができ、本園の教育活動に対する理解が深まった。 ・新たにICTシステムを導入することで、在園児の出欠管理、園バスに関する情報、預かり保育の申し込みなどについて、保護者の利便性を考えた環境を作った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新たにICTシステムを導入したことで、在園児の出欠管理については、定着してきた。次年度は、園バスの乗車・運航に関する連絡体制、預かり保育の申し込み及び決算方法について、保護者の利便性を考えた環境を実施する。 ・入園規模者にとってホームページによる情報収集は、保護者にとって基本的なものとなっている。更新については、順次新しい情報を提供できるように務める。また、在園児の保護者に対しても、情報共有がしやすいものとして活用する。 ・フェイスブックやインスタグラムで、タイムリーな園児の活動状況を公開する。 |
| 総合評価 | | | | | 3 | | |